

した観測点のデータを含め、安定したデータの取得、解析技術の向上、地下水位の変動メカニズムの解明、データの流通等に重点を置いて実施する。

#### 5.4 地震発生過程に関する物理・化学的基礎研究

地震発生に至る全過程の理解のため、地震発生過程に関する物理・化学的基礎研究として、地震発生域の温度・圧力条件における断層の摩擦構成

則及び岩石・水反応に関する実験的研究、震源域の極く近傍における高分解能の地震観測等を行う。あわせて、平成11年度まで、地殻変動の解析シミュレーターの開発研究を行う。

KINUGASA Yoshihilo (1998): Future Subjects on Earthquake Research in the Geological Survey of Japan.

<受付: 1998年2月12日>



## 海洋堆積学の基礎

英国オープン大学編, 野村律夫訳, 愛智出版  
A5判, 192ページ, 定価3,400円(税別)  
1998年2月16日発行

この本は、英国オープン大学(日本の放送大学に相当する)の海洋学シリーズのテキストのひとつ、Ocean Chemistry and Deep-Sea Sedimentsの訳本である。原本は1989年にButterworth-Heinemann (Linacre House, Jordan Hill, Oxford, OX2 8DP, UK)から出版されている。

本の構成は、訳者序文 || 序文 || 目次 || 概説 || 海洋の化学循環 || 遠洋性の生物起源堆積物 || 陸源性堆積物の深海への供給 || 深海堆積物における堆積後のプロセス || 地質年代表 || この後のための推薦図書 || 回答と質問へのコメント || 謝辞・文献 || 索引, となっており、海洋化学と深海堆積物についての広い課題を適宜バランス良く取り込み、基本的考え方や見方を簡潔に解説している。理解を助けるための質問と回答もついている。

本書の題名は「海洋堆積学の基礎」となっているが、原題とは異なる。もともとのねらいは海洋における化学元素の循環とそれにかかわる様々なプロセスを総合的に理解することにある。

訳者の野村律夫氏は島根大学の教育学部の教授で、底生有孔虫の古生物学を基本とする層序学や古環境学、古海洋学に取り組んでおり、宍道湖の古環境についても熱心に研究を進めている微生物学者である。古環境学や古海洋学への一つのアプローチとして微化石を研究してはいても、堆積物となった微生物と海洋の様々なプロセスとのかかわり合いについての理解なくしては研究できないことを痛感しており、この分野に興味を抱く地質学分野の学生をその立場に引き寄せたいと願って本書の題をあえて「海洋堆積学の基礎」にしたという。

訳は直訳が多くやや読みにくい。一部に訳の誤りもあるし、本の値段もけっして安くはない。英語が得意な人は原本を取り寄せて読む方が安いかもしれない。しかし、専門書を英語で読み通すことはつらい。必要に迫られなければ読むわけではない。ましてや入門書となるとどうであろうか。

もともとこの本は放送大学のテキストとして気楽に読めるような内容になっている。それでいて化学、生物学、地質学など多岐にわたる海洋のプロセスの全体像を理解するに十分な内容をそなえている。これから古生物学や古環境学、古海洋学に挑もうとする若い人の入門書の一つとして推薦したい。  
(地質部 鹿野和彦)